

自己実現への道

第95回 - 第7章 「自分の運命を好転させる心の持ち方」(その2)

★ 実力のある人は謙虚である

謙虚さとは何か？ 傲慢さの反対である。では傲慢な人とはどんな人か？

- ・傲慢な人は、何かを成し遂げるための手段を自分で思いつくことができなと、いとも簡単に、「そんなことは不可能だ」と断言してはばからない。
- ・傲慢な人は、自分だけがしゃべって、人の話には耳を傾けない。
- ・傲慢な人は、他人の意見を聞き入れない—しかもその理由は、他の人が言い出したからという簡単なことであったり、もう自分の考えは決まっているんだということであったり、あるいは他の者が功績を認められるのは我慢がならない、ということであったりする。
- ・傲慢な人は、信念に欠けている。
- ・傲慢な人は、「世の中には天国も地獄もあるものか」と平気でまくしたてる。
- ・傲慢な人は、人生を大転換して信念の世界に入れる可能性について、考えようもしない。

傲慢な心を打ち砕いて、へりくだった謙虚な心に祭壇を譲ろう。

この心の大転換は、私たちの生活にどんな変化をもたらすだろうか？ 思いあがった心情がなくなると、思いもよらない穏やかな自信が湧いてくる。謙虚な心をもたらす静かな信念は、山をも動かす力を持ち、私たちが真の意味の繁栄へと導いてくれる。

傲慢な人は周囲の人から嫌われ、人生で失敗し、そのために不平が多い。反対に真に実力のある人は一般に謙虚である。謙虚であるように努めれば、あなたの人生はより好転するはずである。

★ 対立も矛盾も、逆利用すれば「価値」が生まれる

人生を、信念を持って生きてきた人々は、ひとつの原理を学び覚えていて、巧みに役立てている。

世の中にはいろいろな矛盾があるが、創造的な方法で互いに反発させれば、宝石箱のふたが開いて、未発見の価値がいくつも飛び出してくる。

世の中には強い人、優しい人、富める人、貧しい人・・・多様な人が一緒に生きている。だれでも、それらによって生じる矛盾や対立を内に秘めているのだ。しかし、表面的には平穏である。なぜなら、それらの矛盾や対立は争いを生むのではなく、相互理解のための重要な要因として存在するからである。

人は多くの矛盾や対立に悩み、苦しむだけでなく、謙虚に己を省みて、これらが存在するからこそ、相互理解が深まり、更に進化した人格を形成させることができるということを、を知るべきである。矛盾に不平を言うのではなく、対立して争うのではなく、2極を超えた次元の世界に生きる道を探し出すことこそが、真の幸せであり、神が期待されている解なのだ。

<MIKO>

□ 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より